

第4学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の状況や相手に合わせて話す内容や話し方を工夫することが苦手である。 ○出来事や自分の考えを整理し、自分の言葉でまとめたり、分かったことを表現したりすることが苦手である。主述の関係、内容の順序が明確でない。書く力に個人差がある。 ○自分で課題を見つけたり、自分の考えをもったりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な場面を想定して、どのような話し方や内容がふさわしいかを考えさせる。 ○表現したいことを中心をはっきりとさせ、それが伝わるように言葉を選んだり、順序を考えたりさせる。個人や友達相互で読み直しをさせる。 ○文章を読んだ感想や考えを友達と交流する。筆者はどんな考えをもっているのか、文章から読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と互いの発表の様子を評価し合ったり、良い例と悪い例を見比べて改善点を見つけたりと、良い話し方の具体的な姿を見つける。 ○言葉の意味調べて語彙を増やす。文章の間違い探しや接続語、指示語を用いた短文作りをする。読み直しの視点を示して、より良い表現を見付けられるようにする。 ○「なぜ」「どうして」の言葉の続きを考えさせたり、場面や状況を具体的に示したりして、考える手がかりをつくる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○時間内に読み取ったものをまとめたり、資料の内容を簡潔にまとめたりすることが苦手である。 ○学習したことを通して、今後の生活にどのように活かしていきたいか、などの学習のまとめを考えるのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートにまとめるときに、ページ数や時間を設定し、見直しを持って活動させる。 ○学習してきたことを自分事として考えさせる。学習問題を確認し、学習初めの自分の考えを思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のノートと自分のノートを共有し合い、よいまとめ方がどのようなものなのか気付かせる。また、そのまとめ方を用いたり、自分なりに変えたりしてよりよいまとめ方を身に付けさせる。 ○日常生活の中で学習したことが活かせるのか具体的に想像させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○計算が得意で、式や筆算を省略したり、暗算で求めたりする。考え方を友達に説明する力、表現する力が弱い。 ○数が大きくなるだけで学習を敬遠してしまう児童がいる。 ○グラフの1目盛りがいくつかわからない児童がいる。グラフに表す良さに気付かず、正しく読み取ることができない。 ○分度器の使い方、読み方どちらも苦手である。角の大きさを測る時に、どこの目盛りを読めばいいのかが分からなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○過程を理解していない場合もあるので、解答だけにとらわれずに理解度を見極める。 ○数は大きくなっても小さくなくても一、十、百、千の繰り返しや、十進位取り記数法の原理に基づいていることを振り返らせる。 ○表やグラフの目的を意識して、ふさわしいまとめ方をさせる。 ○調べたい角の見た目の大きさから角度の見当をつけさせたり、0をどこに指定するかに気を付けさせたりする。分度器を使う機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考の過程を、既習事項をもとにして説明したり、友達と互いに伝え合ったりしてする活動を通して、表現する力を育てる。 ○位取り表で確認したり、音読したりすることで、大きい数や小さい数に慣れ親しむ。2ずつ増える、5ずつ増えるなど、数の増え方の決まりの種類を知る。 ○1目盛りの大きさや単位に気を付けて読み取らせる。表題や項目に書いてあることを読み取らせる。それぞれのグラフや表の表し方の良さに気付かせる。 ○角が大きくなった場合、補助線を引いたり、向きを変えたりして、およその角度の見当をつけさせる。直線の回転方向に矢印をひき、どこの角度を調べるのかを明確にする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の内容や生活経験から予想を行ったり、観察・実験から得られた結果を予想と比較して考察し、結論を出したりすることが苦手な児童が多い。 ○自分の考えをまとめ相手に分かりやすく伝える力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもたせるための時間を十分に確保する。また、学習課題を児童が納得できる物に設定し、ICT機器を効果的に活用する必要がある。 ○観察や実験の目的をはっきりさせ、自分の考えを相手にも納得させるための根拠をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題、予想、結果、考察など学習の流れを確認する。何を解決するための実験なのかを捉えさせ、考察につなげられるようにする。また、既習内容や生活経験と関連付けるように助言する。 ○事実と解釈を区別して、話型で示したり、イメージ図で表現したりできるようにする。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な運動ができない児童が多い。 ○チーム競技でより良い結果にするための手立てを考えるのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○練習時間を多く設ける。補助運動の場を設定したり、基礎感覚作りの時間を設けたりし、楽しみながら様々な運動感覚が育つようにする。 ○その運動で身に付けたい力やポイントを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを活用して、自分の動きを客観的に見たり、プロの技と比較してみたりして改善点を考えさせる。 ○チームで運動する良さを考えさせる。児童の良い発言や動きを取り上げて共有する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む児童が多くみられるが、意欲付けや支援が必要な児童もいる。 ○概ね範唱を聴いて歌うことができるが、頭声と地声など発声の仕方に個人差がある。リコーダーは感染症対策のため練習が難しく、十分に取組めていない。 ○楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉にする力が伸びてきているが、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のきまりをしっかりと身に付けさせる。 ○演奏の基本的な技能の向上を図り、状況に応じて練習の機会を設ける。また、全体としての音色に注目させ、曲想にふさわしい表現を工夫するようにさせる。 ○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素の働きに気づき、感じ取ったことを文章で表すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を明確にし、分かりやすく具体的に指導する。 ○状況に応じて学習内容を工夫し、演奏技術が身に付くよう繰り返し指導する。躓きが見られた場合は課題を分析し、スモールステップで取り組めるように指導を工夫する。 ○教室内掲示を活用し、個別指導や言葉かけをして、個々の考えを表現する支援を行う。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく意欲的に活動できているが、自分なりの考えをもって創作できる児童はまだ少ない。 ○見本を見て、作り方を理解しても、用具を器用に使えず、思いを表現することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いを表現することの楽しさに気付けるようにする。 ○物投影機等を活用し、作業過程を丁寧に分かりやすく理解させたり、用具の使い方の練習する機会を増やしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○独創性や工夫ある作品を紹介し、良いところを互いに伝え合ったりする時間を設ける。 ○一人一人の技能の実態を把握し、事前にどこでつまずきそうか予想しておき、個々に応じた製作活動ができるようにする。